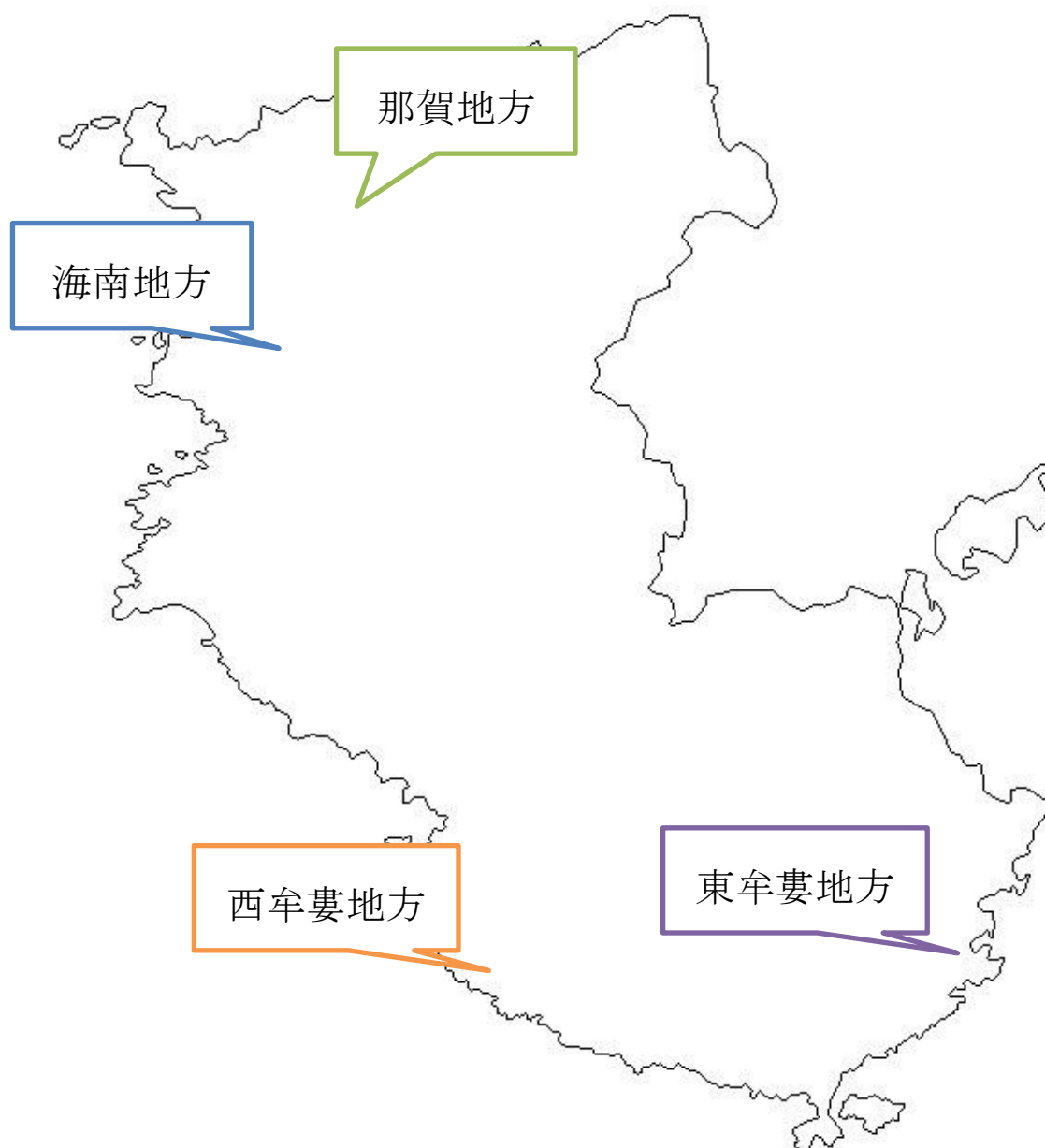


# 2017 四種リーグ戦研修会

## 報告



(一社) 和歌山県サッカー協会 技術委員会 指導者養成部

平 祐基

## 【開催概要】

### 1. 目的

- ・四種年代で年間を通したリーグ戦を開催するにあたり、リーグ戦の意義や大会の趣旨を、指導者で共有する。
- ・リーグ戦をより良いものにしていくため、各地域の現状や課題について意見交換する。
- ・実技や指導実践を通して、指導力向上及び自己研鑽の場とする。

### 2. 会場・日時

〔西牟婁〕平成29年 4月 2日（日） 上富田フットボールセンター 他

〔那賀〕平成29年 4月 9日（日） 大宮緑地公園 他

〔東牟婁〕平成29年 4月15日（土） 木戸浦グラウンド 他

〔海南〕平成29年 4月16日（日） 海南スポーツセンター

全会場 9：30～16：00 にて開催

### 3. 内容

#### ◆講義

「全日本少年サッカー大会TSG報告」

「リーグ戦の考え方」

「マッチ・ウェルフェア・オフィサー研修会」

#### ◆実技

「インストラクターによるコーチング・デモンストレーション」

#### ◆指導実践

「参加者による指導実践・ディスカッション」

### 4. 参加者

〔西牟婁〕23名（13チームより参加）

〔那賀〕29名（24チームより参加）

〔東牟婁〕11名（10チームより参加）

〔海南〕37名（30チームより参加）

### 5. リフレッシュポイント

参加者のうち、C級ライセンス保持者にはリフレッシュポイントとして10ポイント付与  
(講義：5ポイント 実技：5ポイント)

## 【活動報告】

### 全日本少年サッカー大会TSG報告

和歌山県四種リーグ戦研修会では、全日本少年サッカー大会のTSG報告を行っています。和歌山県予選を勝ち抜いたその先にある全国大会では、どのようなサッカーが繰り広げられ、全国レベルで大切にしていることは何なのか、そういった情報発信の場としてTSG報告を位置づけています。本大会が冬開催になってからは、時期が6年生の終盤になったことからフィジカルの要素（体格やスピード・キック力等）に迫力が増し、特に守備面において「タフで、コレクティブ（組織的）」な場面が見受けられる傾向にありました。しかし前回大会より“サッカーの本質の追求が随所に見られた大会”と分析され、強固な守備を打ち崩すための「スピーディーで、テクニカル」な攻撃が展開される傾向となっています。TSGより導き出される「よりテクニカルに、スピーディーに、タフに、そしてコレクティブに」という示唆は、“サッカーの本質を追求するプレー”として発揮されるものであるということが、より明確に打ち出されたように思います。そのベースとなる部分はU-12年代で獲得すべきものであり、U-12年代を過ごす環境が大きく影響するといえます。そのことを踏まえ、U-12年代のゲーム環境・トレーニング環境を考えていきたいものです。

また、全日本少年サッカー大会が冬開催に移行したことで、夏にはFFP（フットボール・フューチャー・プログラム）が開催されるようになりました。このFFPについても映像等を用いて紹介しています。FFPに参加した選手が所属するチームの方々やトレセンスタッフにも話を伺いながら、情報提供の場として設定することで、現代サッカーのトレンドや大会の傾向などを和歌山県全域に発信したいと考えています。

### リーグ戦の考え方

和歌山県の四種では、地域ブロック別のリーグ戦を実施しています。昨年は、リーグ戦やトーナメントなど大会方式についてディスカッションをしていただきました。昨年のディスカッションで出た意見として、「地域ブロック別のリ



ーグ戦だとどうしても大量点差のゲームが生まれ、モチベーション維持が難しい」という指導者の方々が多いようです。そこで、今回の研修会では主に「拮抗したゲームの重要性」について話をしました。県外では、トップリーグ方式を採用している都道府県も多く、拮抗したゲームの積み重ねやそういった環境そのものが、自然と選手たちの向上心・競争心を伸ばしていくことになることを、参加された方々と共有しました。また、これまでの既存大会が“シード”という形で

繋がっただけで変化を感じにくいという地域の課題や、「それぞれに県大会があるため結局はリスクチャレンジしづらい」といったご意見も聞かせていただき、海外の育成年代でのリーグ戦についてご紹介させていただきました。和歌山県は地理的な特性上、乗り越えるべき課題が多いですが、拮抗したゲーム環境・リーグ戦の実現を目指して、指導者や関わるすべての大人が“player's first!”の視点で繋がり、知恵を出し合うことが大切かと思います。四種委員長やユースダイレクターを中心に、今回参加された皆様の声でリーグ戦をより良いものに進化させ、和歌山県サッカー界に変革を起こす原動力となっただけの事を期待します。

講義では、午後の実技につなげるため、あるいは日頃の実践を振り返る目的で、“コーチング”についても触れました。年間を見通し、リーグ戦で選手たちを鍛えるにはどんなコーチングを心がければよいのか、ご自身で整理していただくためにもこの内容を設定しています。日頃の選手たちへの働きかけを工夫している方や、ゲームの中で育てたい部分を明確に持つことをすでに実践されている指導者の方々の話をたくさん聞くことができ、嬉しく思っています。指導者養成部としましても、リーグ戦という公式戦をうまく活用し、ゲームを通じて選手が育っていく環境を指導者の皆様と一緒につくっていきたいと考えています。日頃のトレーニングがゲームの中で生かされるよう「ゲームを意識したトレーニング」を行い、その活動の中で指導者から「本気で日常を変える」取り組みを実践していただければと思います。

#### マッチ・ウェルフェア・オフィサー研修会

今回、四種リーグ戦研修会に「マッチ・ウェルフェア・オフィサー研修会」の内容を設定させていただきました。「ウェルフェア・オフィサー」とは、「リスペクト・フェアプレーの伝道者」です。昨今、社会問題になっている「スポーツ指導現場での暴力・暴言」に端を発し、暴力（暴言）根絶の取り組みの一環として、JFAより発信されました。県内でも数名のウェルフェア・オフィサー研修会担当者があり、研修会を開催することで、県・地域レベルの大会にもウェルフェア・オフィサーを設置していく運びとなっています。

和歌山県サッカー協会では、暴力・暴言の根絶はもちろんのこと、指導者同士の交流の場としてもこのウェルフェア・オフィサーを各大会に設置したいと考えています。大会の各試合に配置される「マッチ・ウェルフェア・オフィサー」は、その存在だけで、暴力・暴言に対してある程度の抑止力を発揮します。ただ、その存在によって（監視されているように感じることで）、指導者の方が本来持っているコーチングの良さを発揮できなくては意味がないため、“監視役”という側面よりも“相談役”“交流の相手”という立場を大事にいただければと思います。研修会の担当者からも、「ゲームを見ていて、技術・戦術的な興味を引く場面があれば、両チームの指導者にその場面の話を聞くことができる機会がある。」という旨の話がありました。ご自身のサッカーに対する見聞を広げる意味でも、ぜひ「マッチ・ウェルフェア・オフィサー」を経験していただきたいと思います。

## 実技・指導実践

昨年度より、インストラクターによる「コーチング・デモンストレーション」を実施しています。今回は、参加者の方々に「選手たちに獲得させたいけどトレーニング方法がわからない」などの身近で具体的な悩みを出していただき、それに応える形で実技をさせていただきました。また「W-up～GAME までの流れでトレーニングを見たい」という要望をいただいた地域も多く、トレーニングの組み立てを解説しながら実践させていただきました。どの地域にも共通して要望



が多かったのが、“ヘディング”や“空間認知”に関するトレーニングです。非常に重要なテーマを出していただき、指導者の方々にも段階的にお伝えしましたので、チームでも実践していただければと思います。

指導実践については、昨年と変わらず敷居の高さを感じています。多くの指導者の方々がおられる前でするので無理はありませんし、我々インストラクターの投げかけ方も反省のひとつですが、ぜひ目の前の選手たちのために、常に指導を勉強できる指導者であってほしいと願っています。

**「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」**

ロジェ・ルメール

## 【 成果・意見・要望 】

リーグ戦開始前でチームの活動もある中、四種リーグ戦研修会にご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。また、実技や指導実践等、精力的に動いていただいたことにも、あわせてお礼申し上げます。

また今回、各地区での開催にあたり、会場確保や日程調整等すすめていただきましたブロック長様にも、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて「四種リーグ戦研修会」を終えて、各チームでの活動に戻られ選手たちのために汗を流していただいていることと思います。今回の研修が、何か少しでも皆様のお役に立ち、目の前の選手たちに還元されていくことを願うばかりです。

今後も、さらに実りある研修会にできますよう、皆様にお書きいただきましたアセスメントより「成果・意見・要望」を以下に記します。

### ー 成 果 ー

- ・あまり知らない情報を聞くことができ、勉強になった。
- ・「リーグ戦を有効に使う」ことをもう一度、指導者として考えてみようと思う。
- ・自分たちでリーグ戦をつくっていこうという気にさせてもらいました。
- ・ウエルフェアオフィサーの設置、すごくいいと思う。指導者には必要なことだと思います。
- ・チームに持ち帰れる実践をたくさん見ることができた。
- ・実際の課題や要望に合わせて実技をしてくれたので、すごく為になった。
- ・「質の追求」について、具体的に見せてもらったのがすごく良かった。
- ・W-up～GAME までの流れで見せてもらえるのは本当にありがたい。引き出しが増えた。
- ・多くの日程を用意してくれたので、参加しやすかった。

### ー 意 見 ー

- ・ウエルフェア・オフィサーの研修会は、一度だけでは役割を果たせるのか不安。
- ・低学年～高学年のレベルに合わせたトレーニングの紹介もあればうれしい。
- ・ウエルフェア・オフィサーをぜひ進めてほしい。いろんな指導者と関わることが楽しみ。
- ・実技に参加しない人多すぎる。リフレッシュポイント付与も必要ないのではないかな。
- ・ウエルフェア・オフィサーを実際に進めるのは難しいと感じた。チームに指導者が少なく、現状でも追われているような状況なので。

### ー 要 望 ー

- ・開催回数を増やせないかな。
- ・8地区（和歌山市はひとくくりでもOK）の開催にしてもいいのではないかな。
- ・昼休憩の時間（1時間半）が長いのではないかな。
- ・チームの活動日（リーグ戦の日程）に研修会をやるのはどうかと思う。
- ・年齢関係なく、実技ではみんな動いてほしい。